

保護者の皆様へ

長崎市立緑が丘中学校長

大雨による「高齢者等避難」以上の発令があった場合の対応について

長崎市から発令があった場合の対応について、本校の対応を次のようにします。

1 前日や登校前に発令があった場合

- ① 長崎市が『高齢者等避難』を発令している場合（警戒レベル3相当）
→「登校」もしくは「自宅待機」、または「臨時休業」
- ② 長崎市が『避難指示』を発令している場合（警戒レベル4）
→「自宅待機」
- ③ 長崎市が『緊急安全確保』を発令している場合（警戒レベル5）
→「臨時休業」



学校のHPにも載せています。

2 登校後に発令があった場合

下校時刻の状況に応じて、次の①～③のいずれかの対応をします。その場合、テトルでお知らせします。（当然ですが部活動は中止とします。）

- ① あらかじめ発令を見越して日課を短縮して早めに下校
- ② 学校待機（様子を見て下校させる）
- ③ 保護者の迎えによる下校

3 備考

- ① 臨時休業や自宅待機についての連絡は、前日か当日朝6：45までにテトルで連絡します。
 - ② 自宅待機の場合は、10：00をめぐりに「臨時休業」とするか、「5校時からの授業」とするか、態度決定をしてテトルで連絡します。
 - ③ 「臨時休業」や「自宅待機」の場合、学校での給食はありません。
- ※前日に「大雨特別警報」等が発表され、翌日も大きな被害が予想される場合や登校前の段階で「大雨特別警報」が発表されている場合、その後の予報を基に市教委が一斉に休校を決定する場合もある。

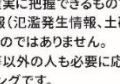
【参考】対応一覧：長崎市教育委員会から出された対応マニュアルに基づいて作成したものです。

警戒レベル	気象台発表	長崎市発表	学校の対応	
	土砂災害情報（雨）		登校前の場合	登校後の場合
レベル1	早期注意情報		通常登校	通常授業
レベル2	注意報	第1、2次防災体制		
レベル3	大雨警報・洪水警報	高齢者等避難	・登校 ・自宅待機 ・臨時休業	・通常授業 ・早めの下校
レベル4	土砂災害警戒情報	避難指示	・自宅待機 ・臨時休業	・集団下校 ・保護者引き渡し ・学校待機
レベル5	大雨特別警報（土砂災害）	緊急安全確保	・一斉臨時休業	・学校待機

裏面もご覧ください

ひなんしじ 警戒レベル 4 避難指示 までに必ず避難

市町村からの避難情報発令前でも自らの判断で避難しましょう

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等
5	 災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	きんきゅうあんぜんかくほ 緊急安全確保 ※1
<警戒レベル4までに必ず避難!>			
4	 災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	ひなんしじ 避難指示
3	 災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	こうれいしゃどうひなん 高齢者等避難 ※2
2	 危険状況悪化	自らの避難行動を 確認する	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	 今後災害状況 悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。また、警戒レベル相当情報(氾濫発生情報、土砂災害警戒情報など)が発表されたとしても、必ずしも同時刻に同じレベルの避難情報が発令されるものではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。



ハザードマップを確認し、自宅の災害リスクと、取るべき行動を確認しましょう。



「避難」とは「難」を「避」けることです。
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。
屋内で安全を確保することも考えられます。

※屋内安全確保は「3つの条件」を満たす場合に検討する行動です。
詳細は裏面を確認しましょう。



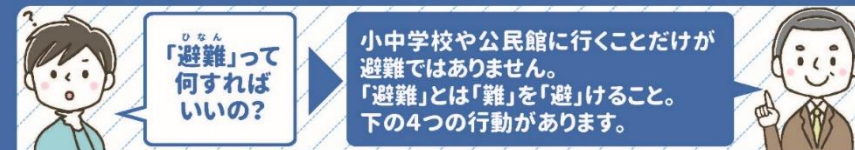
ハザードマップポータルサイト 検索

警戒レベル5は、
すでに安全な避難ができず
命が危険な状況です。
**警戒レベル5緊急安全確保の
発令を待ってはいけません。**

**警戒レベル4避難指示までに
自らの判断で危険な場所から
全員避難しましょう。**
※避難勧告は廃止されました。
(令和3年5月20日から)

避難に時間のかかる
高齢者や障害のある人は、
**警戒レベル3高齢者等避難で
危険な場所から避難
しましょう。**

内閣府(防災担当)・消防庁



行政が指定した避難場所 への立退き避難



命を守るために緊急的に
避難する場所です。
※避難所と避難場所の違いに注意しましょう。
避難所はその後の避難生活を送るための
施設なので、切迫した災害の危険から逃れる
ためには避難場所に避難しましょう。
※避難所と避難場所は相互に兼ねている場
合もあります。

安全な親戚・知人宅 への立退き避難

普段から災害時に避難
することを相談して
おきましょう。
※ハザードマップで安全か
どうかを確認しましょう。



普段から
どう行動するか
決めておき
ましょう

安全なホテル・旅館 への立退き避難



通常の宿泊料が必要
です。事前に予約・
確認しましょう。
※ハザードマップで安全か
どうかを確認しましょう。

屋内安全確保

ハザードマップで以下の
「3つの条件」を確認し自
宅にいても大丈夫かを確
認することが必要です。



想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある
区域では立退き避難が
原則です。

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
(入っていると・・・)



流速が速いため、
木造家屋は倒壊する
おそれがあります

地面が削られ家屋は
建物ごと崩壊する
おそれがあります

② 浸水深より居室は高い



5m～10m未満
(3階以上浸水・4階以下浸水)

8m～5m未満
(2階以上～軒下浸水)

0.5m～3m未満
(1階以上～軒下浸水)

0.5m未満 (1階以下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、
水・食糧などの備えが十分
(十分じゃないと・・・)

水、食糧、薬等の確保が困難になる
ほか、電気、ガス、水道、トイレ等の
使用ができなくなるおそれがあります



※① 家屋倒壊等氾濫想定区域や② 水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、
お住いの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。自主的に早めの避難をしましょう。

【大雨時に気を付けてほしいこと】

- ① 川や側溝等、増水した所では、道路の端の方を通行しないようにすること。
- ② 小さな川であっても、下におりたり、覗き込んだりすることがないようにすること。

③ 土砂災害も予想されるため、崖の近くには近寄らないようにすること。

- ④ 自宅から学校までの間に、危険が予測されるような場所は避けて通るようにすること。
- ⑤ 避難をする場合は、避難準備物や避難場所等を確認すること。

